

伊勢市の環境の現状

(総括)

分野	概要
(1) 低炭素 分野	<ul style="list-style-type: none"> ● 産業や業務によるCO₂排出量が多く、事業活動に伴う環境負荷を抑制することが必要。引き続き省エネルギー行動を継続・強化していくことに加え、排出の場面や取組主体を超えた継続的な対策が求められる。 ● 単身や高齢者世帯の増加による、一人当たりのエネルギー使用量の増加が想定されるため、環境負荷低減策の検討が必要。 ● 伊勢市では、太陽光発電の導入件数累計及び設備容量が進んでいる一方で、無秩序な拡大による景観への影響が懸念される。市の特性に合わせて景観への影響をできる限り回避・低減する必要がある。 ● 乗用車の自動車保有台数が増加傾向にあるため、自動車交通への依存を軽減していくと同時に、環境に配慮した車両の選択や運転を推進することが求められる。 ● 地球温暖化に伴い想定される気候変動によるリスクに対する備えが必要。
(2) 資源循環 分野	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内のごみ搬入量は減少傾向が見られないため、今後も継続して、家庭や事業所におけるごみ減量、再使用、分別・資源回収を定着させていくことが必要である。 ● ごみの大部分を燃えるごみが占めており、食品ロス削減に向けた取組を推進する必要がある。
(3) 自然環境 分野	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内の貴重な動物・植物を保全することに加え、生物多様性の視点も考慮し、都市部における人と生物の共生への配慮を進める必要がある。 ● 地域ごとに多様な自然環境を有しており、これらの地域資源や地域特性を生かしていくことが必要。 ● 農業・漁業の特色を活かした景観が広がっているものの、後継者不足等により、農地においては遊休農地化が進行している地域もみられる。
(4) 生活環境 分野	<ul style="list-style-type: none"> ● 大気環境や騒音振動に関する環境基準は概ね達成しているが、大気汚染や騒音への苦情は経年的に寄せられており、大気汚染や騒音への対策を継続して実施することで、市民の健康、安心・安全のため、良好な生活環境を維持していく必要がある。 ● 広域大気汚染で光化学オキシダントは、国や三重県、周辺他区と連携した広域的な視点での対策が求められる。 ● 勢田川の水質は徐々に改善傾向にあるが、市内を流れる他の河川と比較すると、その水質汚濁の状況はいまだ顕著であるため、生活環境の保全と公衆衛生の向上を図る必要がある。 ● 地域ごとに多様な文化的資源を有しており、これらの地域資源や地域特性を生かしていくことが必要。
(5) 共通基盤 分野	<ul style="list-style-type: none"> ● 皇學館大学と連携した出前講座等を実施しており、環境教育の充実を図っている。 ● 市民・事業者・行政からなる伊勢市環境会議にて、各主体が知恵を提供し合い、協働による取り組みを実践することにより、伊勢市の環境保全・向上を目指している。

(参考資料) 伊勢市の環境の概況調査結果

1. 基本事項

(1) 地勢

- 本市は、三重県の中東部に位置し、伊勢志摩国立公園や国・県の名勝に指定されている二見浦などの豊かな自然環境を有する、全国有数の観光地である伊勢志摩地域の拠点都市。また市域の一部は近畿圏・中部圏の二大都市圏の保全区域として位置づけられている。
- 伊勢志摩国立公園の玄関口にあたり、北は伊勢湾に面し、中央に県内最大の河川である宮川や五十鈴川、勢田川が流れ、東から南にかけては、朝熊ヶ岳、神路山、前山、鷲嶺山が連なり、西には大仏山陵が広がるなど、豊かな自然に恵まれている。

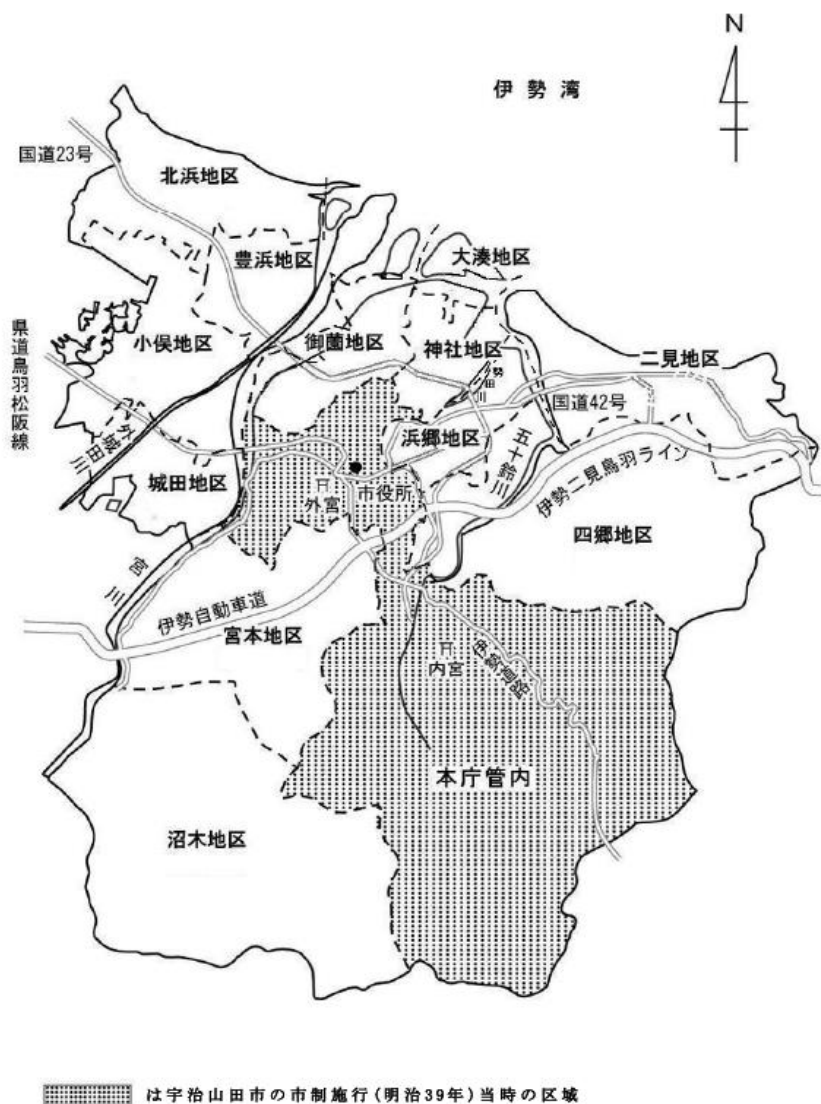


図1 伊勢市の概略図

出典)「2018年版市勢統計要覧」(伊勢市)

(2) 土地利用割合

- 本市の土地地目別面積をみると、山林、田、宅地が多くを占めている。なお、その他には伊勢神宮及び神宮林が含まれている。
- 都市計画用途地域の指定では、住居系の用途地域指定が最も多く、全体の約8割を占めている。

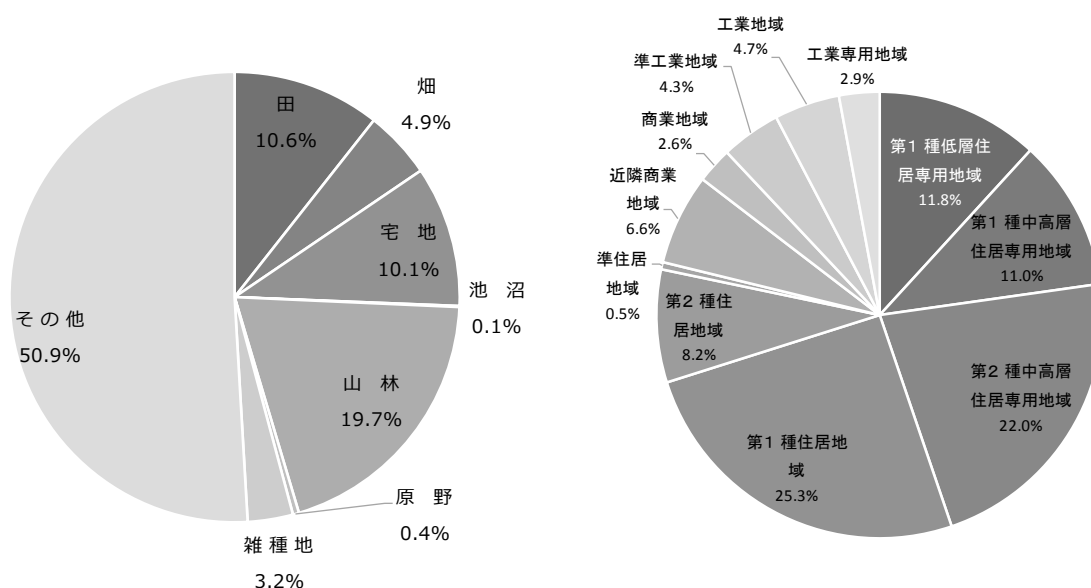


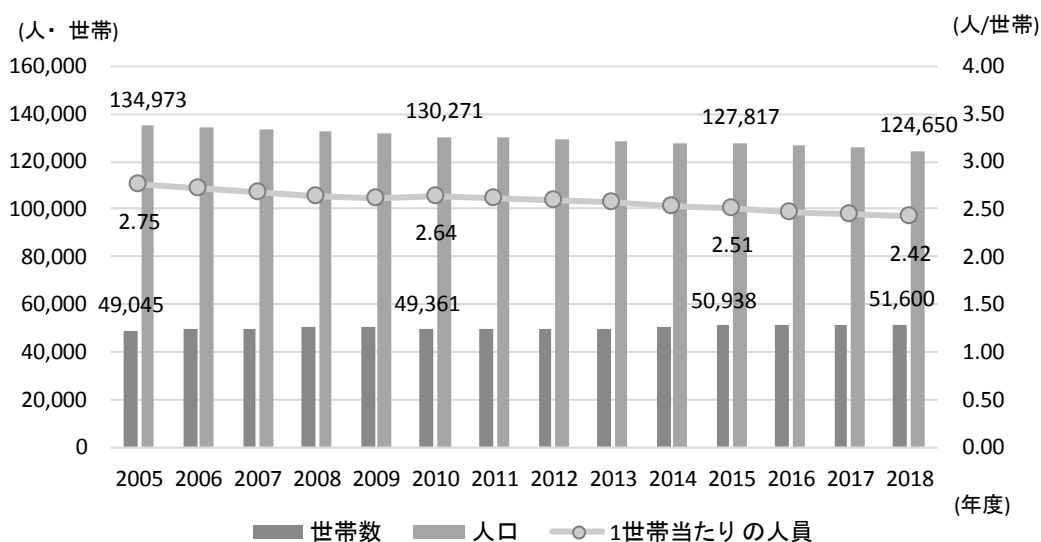
図2 伊勢市の土地利用の現況

(左：土地地目別面積 (2018年度)、右：用途地域指定面積 (2019年度))

出典) 左：「2018年版市勢統計要覧」(伊勢市)、右：都市計画課提供資料より作成

(3) 人口・世帯

- 本市の人口は、近年減少傾向にあり、2018年では124,650人となっている。一方で、世帯数は増加傾向にあり、1世帯当たりの人員は減少を続けている。



※1：国勢調査実施年は国勢調査結果（外国人、国籍不詳含む人口総数）、それ以外は人口推計による。

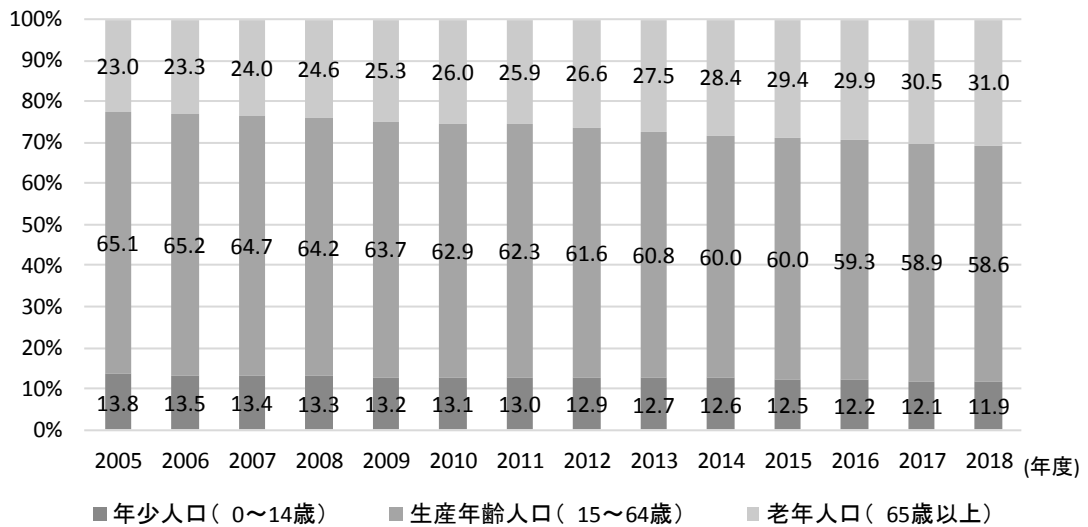
※2：推計人口は、国勢調査による人口（人口等基本集計結果）をもとに、市町から報告される住民基本台帳の動態結果（転入・転出、出生・死亡等）を加減して算出している。

※3：1世帯当たりの人員＝人口÷世帯数

図3 伊勢市の人口・世帯数の推移

出典)「伊勢市統計データベース」(伊勢市)より作成

- 年齢3区分別人口比率は、生産年齢人口比率と年少人口比率の低下が続いており、老年人口比率が高まっている。



※1：国勢調査実施年は国勢調査結果、それ以外は人口推計による。

※2：推計人口は、国勢調査による人口（人口等基本集計結果）をもとに、市町から報告される住民基本台帳の動態結果（転入・転出、出生・死亡等）を加減して算出している。

図4 伊勢市の年齢3区分別人口比率の推移

出典)「伊勢市統計データベース」(伊勢市)より作成

(4) 気候

- 過去5年間(2014年~2018年)の伊勢市の月別平均気温は、最低が4.8℃(1月)、最高が27.4℃(8月)である。また、月別平均降水量は、9月に357.9mm、10月に286.4mmと多くなっている。

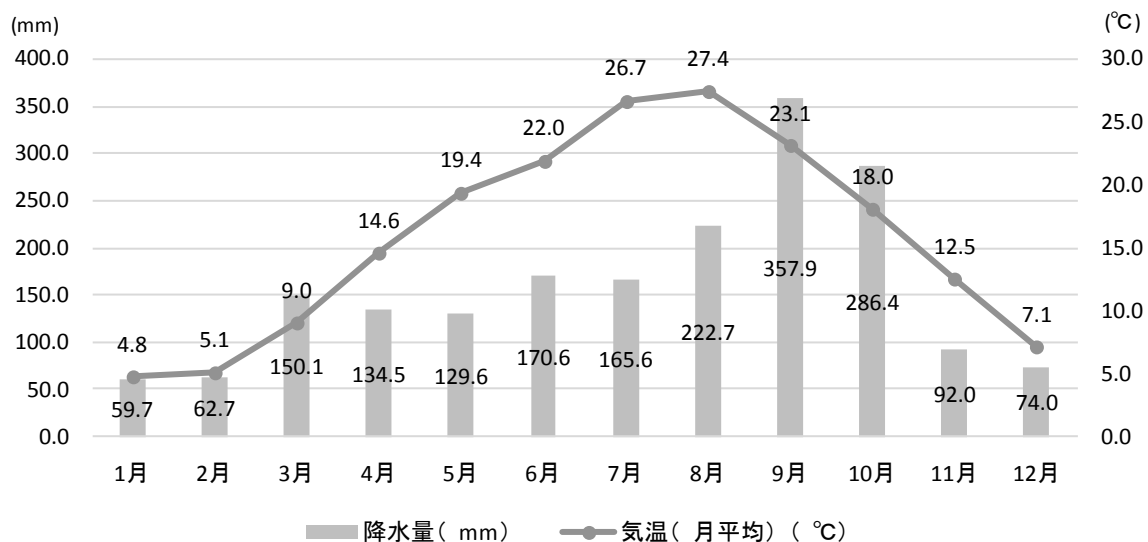


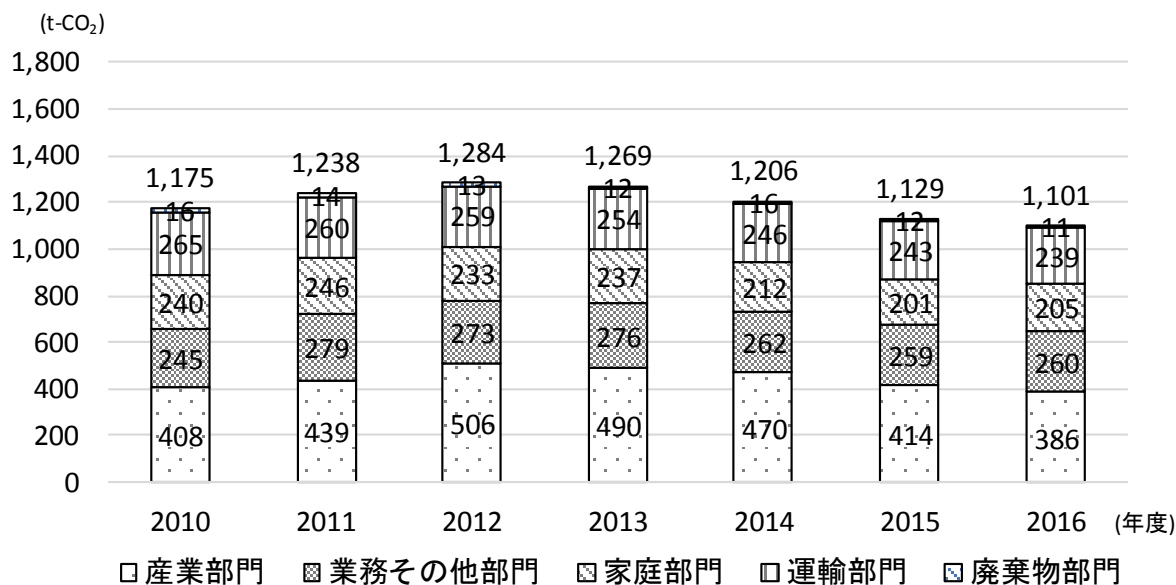
図5 直近5カ年平均の月別平均気温と月別平均降水量

出典)「気象統計情報」(気象庁)

2. 低炭素分野

(1) 二酸化炭素

- 温室効果ガスの多くを占める二酸化炭素排出量の近年の推移をみると、2012年度の1,284t-CO₂をピークに減少傾向にあり、2016年度には1,101t-CO₂となっている。
- 直近年度の部門別の内訳をみると、産業部門が最も多く占めている。



※：区域全体の排出量は、環境省「地方公共団体実行計画（区域施策編）策定・実施マニュアル（算定手法編）（Ver1.0）（平成29年3月）」の標準的手法に基づき統計資料の按分により地方公共団体別部門・分野別の排出量を推計。
 なお、一般廃棄物のCO₂排出量は、環境省「一般廃棄物実態調査結果」の焼却処理量から推計している。

図6 部門別二酸化炭素排出量の推移

出典）「部門別CO₂排出量の現況推計」（環境省）より作成

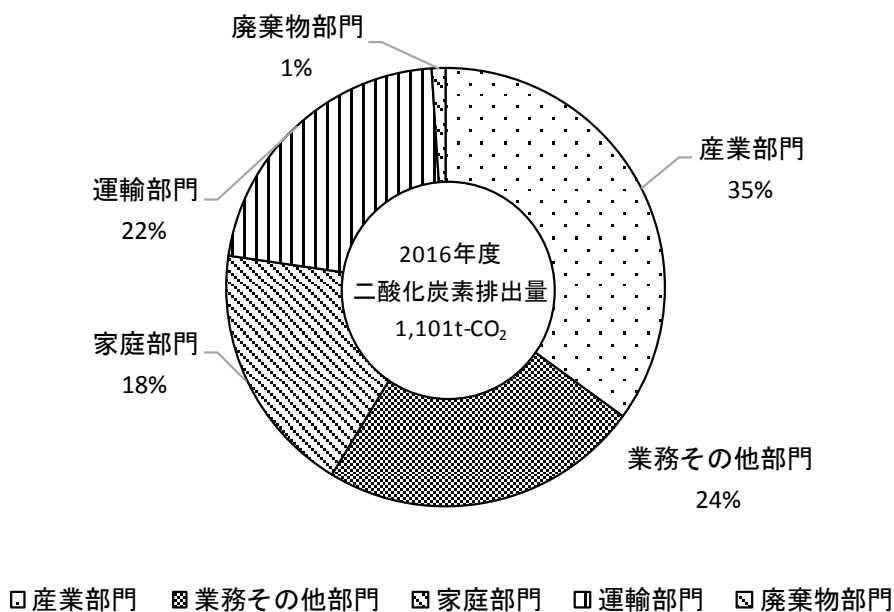
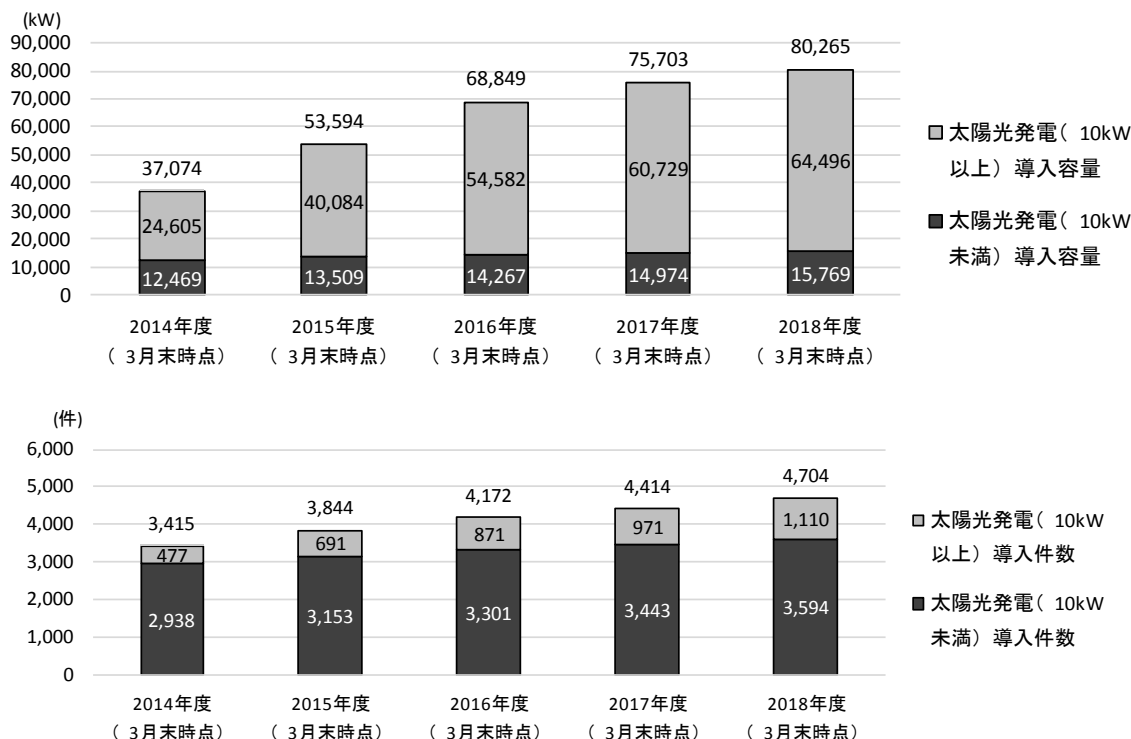


図7 2016年度二酸化炭素排出量の内訳

出典）「部門別CO₂排出量の現況推計」（環境省）より作成

(2) 再生可能エネルギー

- 市域において既に導入された再生可能エネルギーは、太陽光発電のみとなっている。全体の導入容量は、順調に増加しており、2014年度の37,074kWから2018年度には80,265kWと約2.2倍になっている。全体の導入件数も比例して増加しており、2014年度の3,415件から2018年度には4,704件と約1.4倍となっている。



※1：再生可能エネルギー導入容量・件数とは、FIT制度で認定された設備のうち買取を開始した設備の導入容量・件数。
 ※2：FIT制度：電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法（平成二十三年八月三十日法律第八号）に基づく再生可能エネルギーの固定価格買取制度。

図8 伊勢市の再生可能エネルギーの経年変化（上図：導入容量累積、下図：導入件数累積）

出典）「固定価格買取制度情報公表用ウェブサイト」（資源エネルギー庁）より作成

(3) 自動車

- 乗用車（普通乗用車、小型乗用車、軽四輪乗用車）の自動車保有台数は漸増傾向にあり、2017年度には79,001台となっている。
- 内訳をみると、小型乗用車数は減少し、普通乗用車数、軽四輪乗用車が増加している。

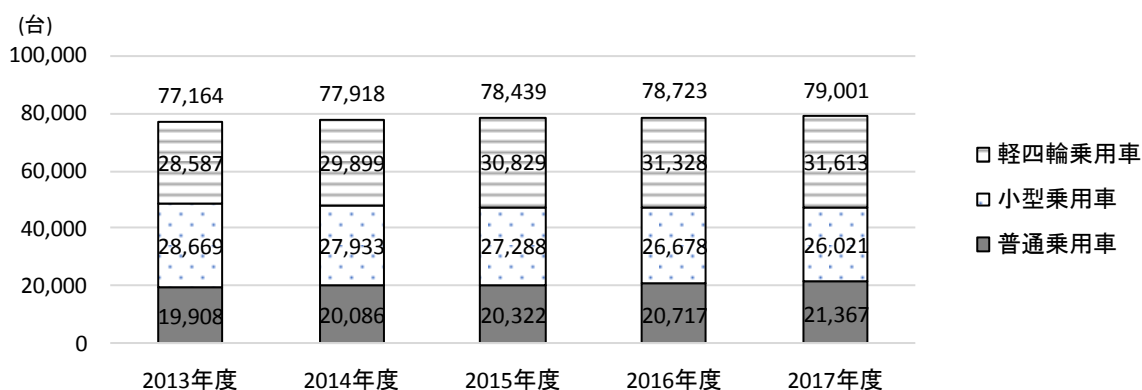


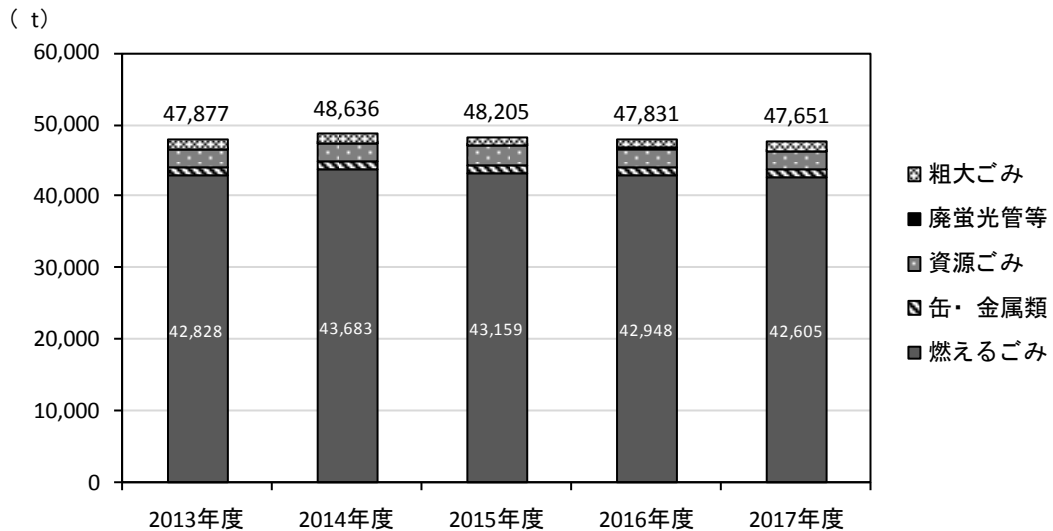
図9 伊勢市における直近5カ年の乗用車保有台数

出典）「市勢統計要覧」（伊勢市）より作成

3. 資源循環分野

(1) ごみ処理

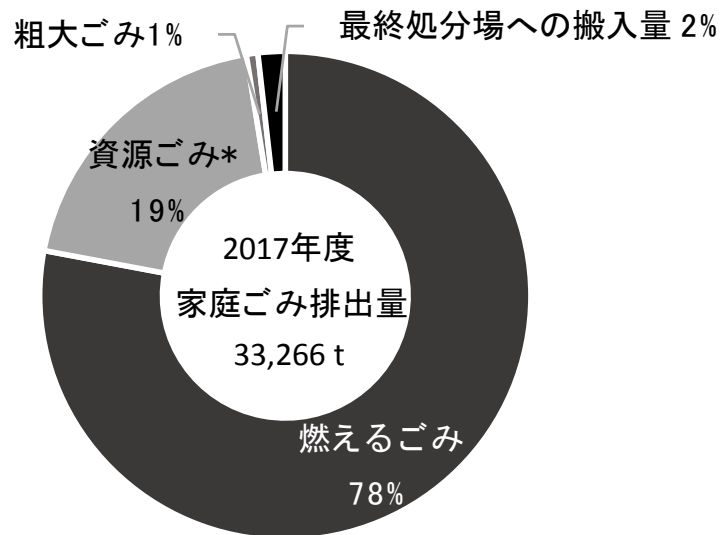
- 伊勢市のごみ搬入量は過去5年を通してほとんど変化はみられず、減量が進んでいるとは言えない状況である。総搬入量は2017年度で47,651tである。
- 伊勢市の家庭ごみのうち、燃えるごみが76%と大半を占めており、次いで資源ごみが20%を占める。



※資源ごみ…ガラス・くずびん類、陶磁器類、資源びん、その他プラスチック製容器包装、ペットボトル

図10 伊勢市のごみ搬入量の経年変化

出典)「伊勢市統計データベース」(伊勢市)より作成



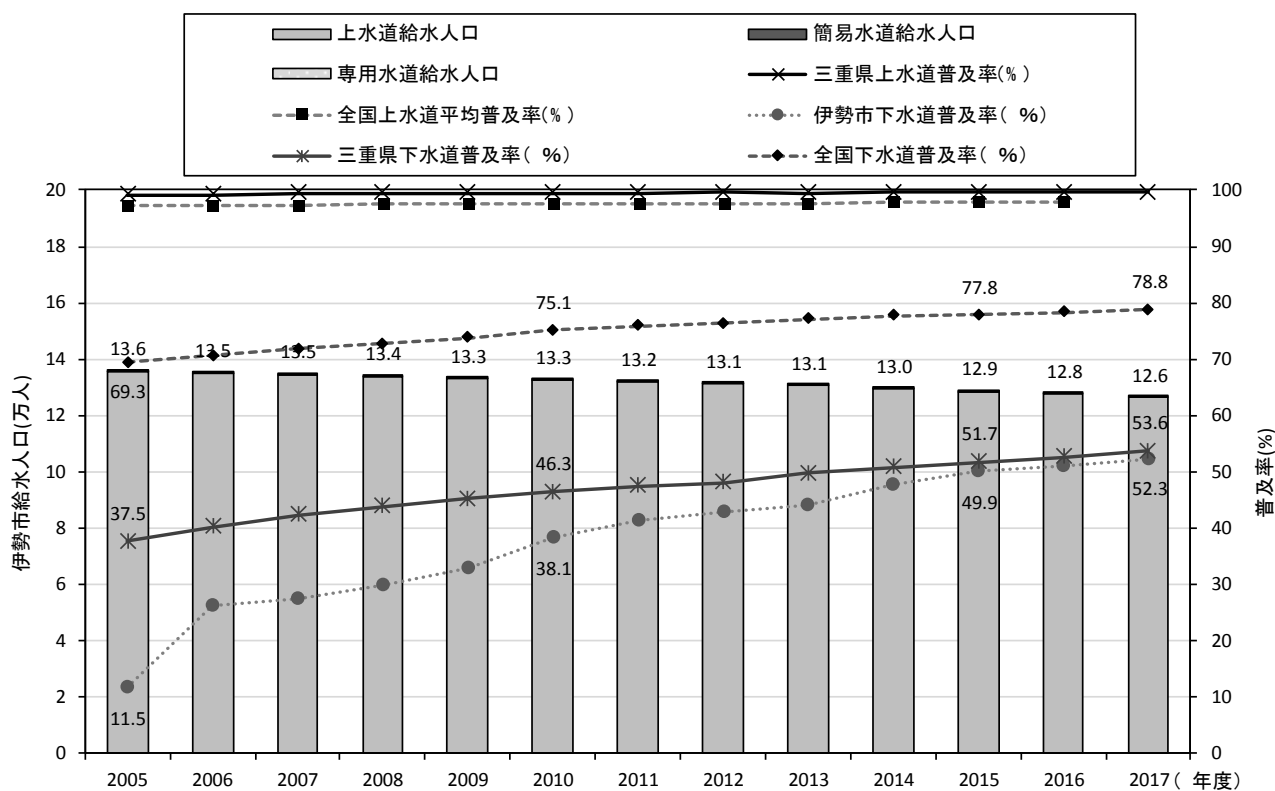
*ごみではなく資源物だが、分類上「家庭ごみ」に含めている

図11 伊勢市の家庭ごみの内訳(2017年度)

出典) 清掃課提供資料より作成

(2) 生活排水処理

- 伊勢市の給水人口は人口減少に伴って減少傾向にある。また、三重県の上水道普及率はほぼ100%であり、伊勢市も高い上水道普及率であることが伺える。
- 伊勢市の下水道普及率は、三重県と比較して低かったが、直近3カ年は三重県並みの普及率で推移している。ただし、全国の下水道普及率と比較すると低い水準にある。



※1：普及率＝処理区域内人口／年度末現在行政区域内人口

※2：水道の種類

上水道・・・計画給水人口が、5,001人以上の水道。

簡易水道・・・計画給水人口が、101人以上の水道。

専用水道・・・寄宿舎や社宅等の特定の人を使用する水道で、生活用の水量が20m³/日以上または（常住）給水人口が101人以上のもの。

図12 伊勢市の給水人口、下水道普及率の推移

出典)「伊勢市統計データベース」(伊勢市)、「平成29年度三重県の水道概況」(三重県)より作成

4. 自然環境分野

(1) 動植物・生態系

- 三重県では、絶滅のおそれのある種がある程度まとまって生息・生育する地域について、「希少野生動植物種主要生息生育地（ホットスポットみえ）」として示しており、伊勢市においては、外城田川・宮川・五十鈴川河口干潟一帯、松下社とロマンの森一帯、横輪川上流域の3地域が示されている。

表3 伊勢市の希少野生動植物種主要生息生育地

外城田川・宮川・五十鈴川河口干潟一帯	アカウミガメの産卵地、コアジサシの繁殖地となっている。また、クリイロコミミガイ、ヒロクチカノコ、ウミニナ科などの貝類やカニ類等の干潟生物が豊富にみられる。
松下社とロマンの森一帯	植物ではミズトラノオ、シバナ、ミズネコノオ等の水生植物34種、塩湿地にはシバナ群落がみられる。動物では、貝類はマルタニシ、マツカサガイ等11種、甲殻類は18種、魚類はメダカやタナゴ類等13種、両生類はダルマガエル等9種、爬虫類は4種、鳥類はミサゴ、オオタカ、チュウサギ等51種、哺乳類は7種である。なお、社叢はスダジイ、イヌマキ等の高木から成り、林内にはタイミンタチバナ、ホソバカナワラビ等が生育している。
横輪川上流域	植物は201種、鳥類は46種が記録されクマタカ、オオタカ、サシバ等のタカ類が生息する。鷺嶺水穴・覆盆子洞にはテングコウモリや固有のシュウレイホラヒメグモ、およびイワタチビメクラゴミムシ、ホラアナゴマオカチグサ等が生息する。また、河川ではスナヤツメ、アジメドジョウ、アカザ等の希少種を含む15種が確認されている。水生昆虫は、カゲロウ目20種、トンボ目14種、カワゲラ目12種等、計67種が記録されている。

出典)「レッドデータブック2015」(三重県)

(2) 自然景観

- 本市は、神宮林をはじめとした緑深い山々、清流宮川、五十鈴川をはじめとした水脈、穏やかな伊勢湾など豊かな自然風土に恵まれている。また、市域の南東部に山林が広がり、河川流域に形成される市街地を経て北部の田園地帯へと展開する都市構造を持っている。
- 伊勢市都市マスタープラン及び伊勢市景観計画では、土地利用ゾーン別の自然景観の特性として以下のように整理されている。
- 集落・農地ゾーンは、宮川左岸に一体となって広がっているほか、御菌地域、二見地域の北西部や四郷地域、南部の山林の山間などに、ある程度のまとまりが見られる。米づくりを主体とするほか、施設園芸、畜産などが営まれ、それぞれの農業の特色を活かした景観が形成されている。また、伊勢湾沿岸部では漁業が営まれ、有滝や今一色などでは農漁村集落の面影を残しています。一方で、後継者不足等により、無秩序な市街化が進んでいる地域もみられる。
- 自然環境ゾーンとなっている市域の南東部に広がる山林は、市の面積の約50%を占めており、神宮林がその半分を占める。昭和21年、自然公園法による伊勢志摩国立公園に指定され、神宮宮域を中心に自然環境の保全が行われている。市域の南東部に広がる朝熊山麓や鷺嶺から続く山並みは、豊かな自然景観を形成しており、市街地の背景として、伊勢の景観の基盤となっている。

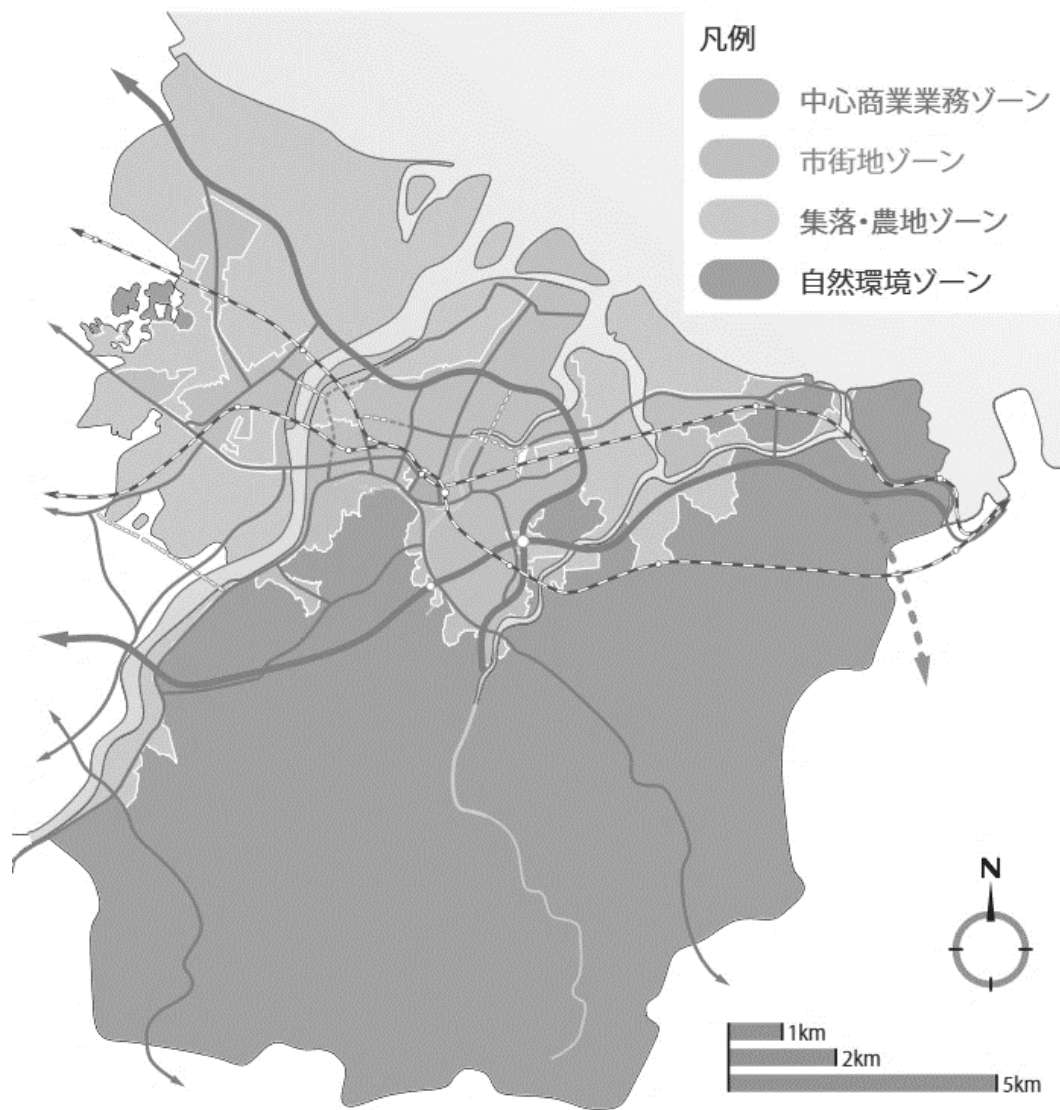


図 14 伊勢市の土地利用ゾーニング

出典)「伊勢市景観計画」(伊勢市)

(3) 公園・緑地

- 伊勢市に位置する国立公園として伊勢志摩国立公園がある。伊勢志摩国立公園は、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町にかけて約 6 万 ha の広大な面積を占める国立公園である。おおよそ 2 つのエリアに分けられ、一つは、伊勢神宮と背後に広がる自然豊かな森林環境を中心とした内陸のエリア、もう一つは複雑な地形・地質及び小さな入り江と岬が無数に点在するリアス海岸に代表される海沿いのエリアである。ほかの国立公園に比べると、私有地の割合が非常に高く(96%以上)、公園内の居住人口も非常に多いため、地域の方たちの生活、歴史、文化、風習などに深く触れることができるのが特徴であり、美しい景観を誇るとともに人と自然の関わりを感じさせてくれる国立公園である。
- 伊勢市の森林面積は 10,956.43ha (平成 30 年 3 月 31 日現在) であり、伊勢市の森林率は 53% である。

5. 生活環境分野

(1) 大気環境

- 本市では、伊勢市厚生中学校で大気汚染調査が実施されている。
- 二酸化硫黄及び二酸化窒素については、毎年環境基準を満たしているが、光化学オキシダントについては、環境基準を超過した状態が続いている。浮遊粒子状物質については、平成 23 年度に一度環境基準を超過しているものの、それ以外の年では基準に適合している。

表 1 伊勢市の大気汚染調査項目の適合状況

大気汚染調査項目	環境基準	年度ごとの環境基準適合状況 ○：適合 ×：不適合							
		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
二酸化硫黄	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。	○	○	○	○	○	○	○	○
二酸化窒素	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。	○	○	○	○	○	○	○	○
光化学オキシダント	1 時間値が 0.06ppm 以下であること。	×	×	×	×	×	×	×	×
浮遊粒子状物質	1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m ³ 以下かつ、1 時間値が 0.20mg/m ³ 以下であること。	○	×	○	○	○	○	○	○

出典)「大気環境測定結果」(三重県)

(2) 水環境

- 伊勢市内では、宮川、五十鈴川、勢田川、外城田川、横輪川等で水質の測定が行われている。
- BOD (生物学的酸素要求量) については、概ね環境基準を満たしているが、勢田川のみ 2014 年度から 2017 年度にかけて基準を超過している。また、勢田川は 2016 年度、2017 年度の三重県内の BOD 値ワースト 1 位である。
- 伊勢湾の伊勢市における水質調査地点では、COD (化学的酸素要求量) 値は環境基準を満たした状況が続いている。

表 2 伊勢市の公共用水域の環境基準適合状況

河川名 (調査地点)	類型	2013 年度		2014 年度		2015 年度		2016 年度		2017 年度	
		BOD 75%値	適合	BOD 75%値	適合	BOD 75%値	適合	BOD 75%値	適合	BOD 75%値	適合
宮川 (度会橋)	AA	0.7	○	0.5	○	<0.5	○	<0.5	○	0.6	○
五十鈴川 (宇治橋)	AA	0.5	○	0.6	○	0.7	○	0.5	○	0.5	○
五十鈴川 (堀割橋)	A	0.9	○	0.9	○	1.1	○	1.0	○	0.7	○
勢田川 (勢田大橋)	C	4.7	○	6.5	×	3.1	○	6.1	×	5.4	×
外城田川 (野依橋)	C	2	○	1.7	○	1.4	○	1.7	○	1.7	○
横輪川 (馬淵橋)	AA	<0.5	○	0.6	○	<0.5	○	0.5	○	<0.5	○
水域名 (調査地点)	類型	COD 75%値	適合	COD 75%値	適合	COD 75%値	適合	COD 75%値	適合	COD 75%値	適合
伊勢地先海	B	2.3	○	2.8	○	2.0	○	2.0	○	2.9	○

出典)「公共用水域及び地下水の水質調査結果」(三重県)

(3) 騒音・振動

- 三重県では毎年幹線を担う道路について自動車交通騒音を測定し、道路に面する地域での環境基準の適合状況を評価している。2017 年度は、伊勢市における全ての調査箇所環境基準に適合していた。

表 3 伊勢市における調査個所の自動車交通騒音測定結果（2017 年度）

環境基準 類型	用途地域	測定地点	道路名	昼間			夜間		
				等価騒音 レベル	環境基準		等価騒音 レベル	環境基準	
				(dB)	基準値 (dB)	適合 状況	(dB)	基準値 (dB)	適合 状況
B	第1種住居 地域	伊勢市勢田町	伊勢自動車道	64	70	○	54	65	○
C	準工業地域	伊勢市小木町	一般国道 23 号	67	70	○	60	65	○
C	近隣商業地 域	伊勢市常磐二 丁目 1	鳥羽松阪線	67	70	○	58	65	○

出典)「三重県環境白書（平成 30 年版）」（三重県）

(4) 公害苦情

- 伊勢市の公害の苦情件数は 2006 年度をピークに達し、その後は増減を繰り返し、2014 年度以降は漸減傾向で推移している。

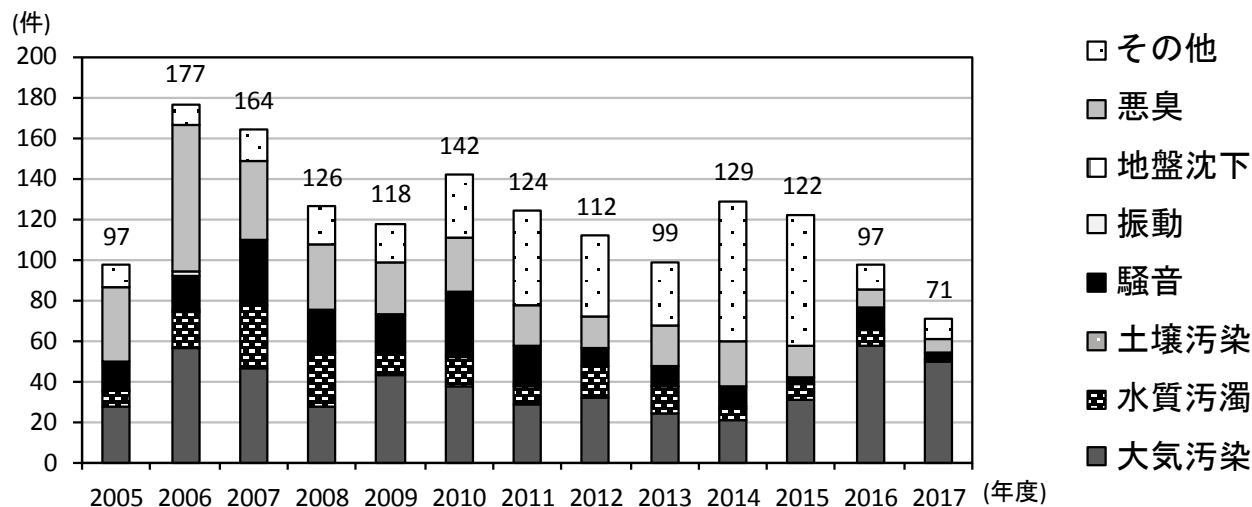


図 13 伊勢市における公害発生種類別苦情件数

出典)「三重県統計書」（三重県）より作成

(5) 歴史・文化

- 伊勢市の文化財のうち、記念物（史跡・名勝・天然記念物）は 22 点指定・登録されており、二見浦や宮川堤のほか、松下社の大クス、宿り木の桜、弥栄の松などがある。
- 伊勢市都市計画マスタープランにおいて、将来都市構造の軸の一つとして、外宮や内宮とともに発達した歴史的な文化・交流の骨格を現代に呼び戻し、周辺の拠点地区などと連携して伊勢市の歴史・文化とのふれあいを高める歴史文化交流軸が設定されている。「伊勢湾・勢田川歴史文化交流軸」では、河川敷を活用し、並木の植栽や花の栽培を行い、花と緑のある水辺空間づくりを進めており、その他にも、水辺に親しむフットパスの整備等のかわまちづくりにも取り組まれている。「伊勢歴史の道」では、かつての参宮ルート（伊勢街道・熊野街道）を中心に、伊勢の歴史・文化資源をつなぐとともに、それらの資源に親しみながら散策、観光などを楽しむ軸を形成することを目標としている。

表 4 伊勢市の指定文化財等件数一覧（平成 31 年 3 月 19 日現在）

区分	有形文化財(国宝)			有形文化財							無形文化財		民俗文化財		記念物			合計
	書跡	考古資料	建造物	絵画	彫刻	工芸品	書跡	古文書	考古資料	歴史資料	芸能	工芸	有形	無形	史跡	名勝	天然記念物	
国指定	1	1	3	2	6	8	9	5	3	2				1	4	1		46
県指定			3	2	8	1	4	3	2				1	7		2	3	36
市指定			2	8	20	19	10	5	7	4			1	16	4		8	104
国選択														3				
市選択														1				
国登録			36															
計	1	1	44	12	34	28	23	13	12	6			2	28	8	3	11	226

出典) 伊勢市ホームページ

6. 共通基盤分野

- 伊勢市では、平成 25 年 4 月 22 日に、伊勢市まちづくり市民会議環境分科会の後継組織として伊勢市環境会議を立ち上げている。自然環境や生活環境等について、各主体が知恵を提供し合い、協働による取り組みを実践することにより、伊勢市の環境保全・向上を目指している。
- 環境教育事業として、皇學館大学と連携し、教育学部生物学ゼミの学生による市内小学校への出前講座を平成 26 年度から実施し、小学校における環境教育の充実、及び、生物分野における専門性を活かした授業による理科教育の充実、また、教員志望の学生の授業実習機会の充実を図っている。また、伊勢市環境会議の会員による園児や小学生対象の出前講座も積極的に開催されている。

表 5 伊勢市環境会議の活動実績（平成 29 年度）

事業名	活動名	概要
きれいなまちづくり推進事業	ごみゼロ早朝清掃	5月30日の「ごみゼロの日」にちなんで清掃活動を行う。今年度は「お伊勢さん菓子博 2017」開催に合わせて実施。 参加会員：7名
きれいなまちづくり推進事業	ごみゼロポスターコンクール	ごみ問題について親子で取り組むきっかけ作り、また、子どもたちのごみ問題に対するメッセージを広く市民に発信するため、市内小中学生を対象にごみゼロに関するポスターを募集する。 応募総数：850作品 入賞作品：66作品
生活排水対策推進事業	勢田川ウォッチング	勢田川の名所や生き物、川の現状を観察し、勢田川を身近に感じてもらうことで、川の河川環境改善について考えるきっかけとしてももらう。 参加会員：5名 一般参加：22名
生活排水対策推進事業	身近な水環境の全国一斉調査	全国水環境マップ実行委員会が主催する水環境の全国一斉調査に参加し、勢田川の水質調査を行う。
生活排水対策推進事業	勢田川浄化実験事業（EM 団子による水質浄化実験）	勢田川の水質浄化を目指し、EM 団子の作成・投入を行い、経過を観察する。 【EM 団子作成】参加会員：7名 協力：一之木クリーンズ 【EM 団子投入】参加会員：6名 有緝小3年生：90名
生活排水対策推進事業	勢田川浄化実験事業（二枚貝による水質浄化実験）	二枚貝（しじみ）の持つ水質浄化能力を利用して、勢田川の水質浄化を試みる。 【しじみ生息状況調査】参加会員：3名 【しじみの放流】参加会員：5名 明倫小4年生：57人
生活排水対策推進事業	勢田川七夕大そうじ	勢田川の浄化に願いを込め、七夕の近日に市民が協力し、ボランティア清掃を行う。 参加会員：7名 一般参加：約 2900名
生活排水対策推進事業	水生生物による水質調査	水生生物を指標とした水質の調査を行い、身近な川の水質を知ってもらうことで、きれいな川の重要性について考えてもらう。 参加会員：3名 市内小学生：13名
生活排水対策推進事業	エコ・クッキング教室	できるだけ生ごみを出さない、生活排水を汚さない調理法を実践することで、ごみ減量、生活排水対策意識を高める。 協力：東邦ガス株式会社
イベント事業	子どもわくわく体験フェスティバル	特定非営利活動法人まなびの広場が主催するイベントに参加し、ごみ分別等の啓発活動を行う。 参加会員：5名 来場者：約 1,000人
イベント事業	伊勢市環境フェア	環境に関連する各種団体の取り組みを周知するために、また、体験ブースに参加いただくことによって環境意識を高めるために、伊勢市とともに環境フェアを開催する。 参加会員：9名 来場者：約 15,000人 協力：伊勢市女性団体連絡協議会、伊勢ごみ問題を考える会
イベント事業	みえ環境フェア	三重県地球温暖化防止活動推進センターが主催するイベントに参加し、環境会議の活動を知っていただくとともに、楽しみながら生活排水対策について考えてもらう。 参加会員：4名 来場者：約 5,000人
その他	環境出前講座（小学生対象）	子どもたちが環境について学び、理解を深めるとともに環境問題の解決に向けた取組に繋げることができるよう、体験講座や啓発講座を行う。
その他	環境出前講座（園児対象）	幼い子どもたちに、楽しみながら環境について興味を持ってもらうことができるよう、紙芝居やごみ分別クイズを行う。 【出前講座メニュー】紙芝居、ごみ分別クイズ、リサイクル品（変身ボックス）、みんなのお約束
その他	百五銀行ロビー展示	百五銀行伊勢支店において、活動写真等を展示して、環境会議の活動を周知する。 【展示内容】活動写真展示、アクリルたわし、リサイクル品展示、活動PRチラシ配布、勢田川環境マップブック配布、海藻しおり配布

出典)「平成 29 年度活動実績」(伊勢市環境会議)